

原爆と原発の共通点

低線量被曝の危険

原爆と原発事故の被害の違い

被害内容	原爆	原発
熱線被害	○	×
爆風被害	○	×
熱線・爆風複合被害	○	×
高線量外部被曝被害	○	×
低線量被曝被害	○	○

原爆投下後、焼け野原の広島市内（赤十字病院付近）



【参照資料】 ウェキペディア日本語「広島市への原爆投下」より

「3.11」から約1年後、廃墟と化した双葉町役場前



【参照資料】「復興ボランティア支援センターやまがた」webサイトより
<http://kizuna.yamagata1.jp/modules/webphoto/index.php/photo/144/>
緑水の森 大谷哲範氏撮影（福島県双葉町役場前 2012年4月1日）

- 左の表にあるように、被害の源泉という点では、原爆と原発は低線量被曝（100mSv以下の被曝）という点では全く共通しています。
- 広島原爆でも投下直後に降った“黒い雨”の被曝被害、あるいは救援や肉親捜しで受けた入市被曝被害など、現在も病気に苦しむ低線量被曝被害が生じました。
- 福島第一原発事故でも、写真の双葉町のように人っ子ひとりいない風景は低線量被曝被害を恐れてのことでした。ただし、**低線量被曝被害という質は同じでも、その量はケタ違いに違います。**原爆で使われたウラン235はわずかに約60kg、それに対して原発事故では核燃料の量は数百トンのレベル。死の灰の量もケタ違いに違います。

低線量被曝被害という一点に絞れば、原発事故は広島原爆など足もとにもおよばぬほど、私たちの生存にとって危険なものなのです。